社会技術研究開発事業
令和５年度研究開発実施報告書

ＳＤＧｓの達成に向けた共創的研究開発プログラム

ソリューション創出フェーズ

「性暴力を撲滅する社会システム構築に向けた、

早期介入とＰＴＳＤケア迅速化の人材育成

および全国展開に向けた体制づくり」

研究代表者　長江 美代子
（日本福祉大学 福祉社会開発研究所、
研究フェロー）

協働実施者　片岡 笑美子
（一般社団法人　日本フォレンジック
ヒューマンケアセンター、会長）

目次

１．研究開発プロジェクト名 2

２．研究開発実施の具体的内容 2

２‐１．目標 2

２‐２．実施内容・結果 4

２‐３．会議等の活動 13

３．研究開発成果の活用・展開に向けた状況 15

４．研究開発実施体制 15

５．研究開発実施者 17

６．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など 19

６－１．シンポジウム等 19

６－２．社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など 20

６－３．論文発表 25

６－４．口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） 25

６－５．新聞報道・投稿、受賞等 26

６－６．知財出願 26

１．研究開発プロジェクト名

性暴力を撲滅する社会システム構築に向けた、早期介入とＰＴＳＤケア迅速化の人材育成および全国展開に向けた体制づくり

２．研究開発実施の具体的内容

２－１．目標

（1）目指すべき姿

① 地域における社会課題

性暴力被害は心的外傷後ストレス障害（以下PTSD）発症→生活困難→社会不適応→再被害、の悪循環が存在する。性暴力救援センター日赤なごや「なごみ」（以下「なごみ」）での対応件数は2016年開設以後の約6年間で、電話延べ8687件、来所延べ2563件、診察延べ802件、うち新規受付1774件であり、その2/3は愛知県および名古屋市の住民である。子どもの被害、特に思春期の被害は深刻で、利用者の約3割は18歳以下である。成人でも、被害後1年以上経過してからの来所者の70%は18歳未満で被害に遭い、数年から数十年、PTSD症状を抱え苦しんでいた。親族（実父、養父、兄弟など）からの被害は全体の25%に及ぶ。SNSによる被害も増加傾向である。18歳未満では、自分で「なごみ」に連絡してくることは少なく、被害の発覚までに時間がかかっている。特にコロナ禍でDV・虐待・自殺は増加、児童・生徒・大学生の性暴力被害は前年度より17%（26.3→43.2%）増加し、SNSや親族からの被害が目立っている。

性暴力被害者のほとんどが被害直後から急性ストレス症状に悩まされ、その後は半数以上がPTSDを発症する現状に対し、日本のほとんどの性暴力被害者ワンストップ支援センター（以下OSC）が、PTSDに対応している精神科を探すのに苦慮している現状がある。本プロジェクトの調査では、愛知県内109件の精神科診療施設(個人を含む)のうち、27件がPTSD治療は行っておらず、ランダム比較試験でエビデンスが確立された治療法である、トラウマに焦点を当てた認知行動療法（TF-CBT）を基盤としたPTSD専門療法(For et al., 2013)について実施しているのは7件だった。PTSD治療を行っていない理由の半数以上は、診療時間に余裕がなくコメディカルスタッフが不十分という内容だった。地域のOSCに対して、半数は協力できないと回答した。協力できない理由は、①現状の精神科診療体制において、性暴力被害者が示す病理、たとえば解離に関するもの、複雑性PTSDおよび慢性化する経過でおこってきた依存などの合併症に対応する余地が、時間的にも人員的にも見いだせない、②トラウマをかかえた性暴力被害に対応する経験やトレーニングを受ける機会がないため対応できない、③OSCが認知されていない、であり、課題をあらためて認識した。個人の力が及ばない内容であり、時間をかけて国の施策に反映できる取り組みを続けていく必要があると考える。

シナリオ創出フェーズでは、病院拠点型OSCを拠点に、被害直後から中長期の性暴力被害者救援システム「NGM4S (NAGOMI for Survivors) 救援システム」を構築した。このシステムを基盤に、まず県内の救命救急センターへのOSC拡充に向けた事業展開を図り、多機関多職種連携のための情報共有、データ構築を図っている。一刻も早くNGM4S救援システムを全国的に展開し、被害者のPTSD予防・治療・回復を確実にする仕組みの確立が課題である

② 目指すべき姿（ビジョン）

すべての性暴力被害者は救援され、予想されるPTSD発症に対して予防・治療・回復に沿った適正な医療が提供され、健康で社会生活が継続できる。OSCが、国連の推奨に基づき女性（人口）20万人に

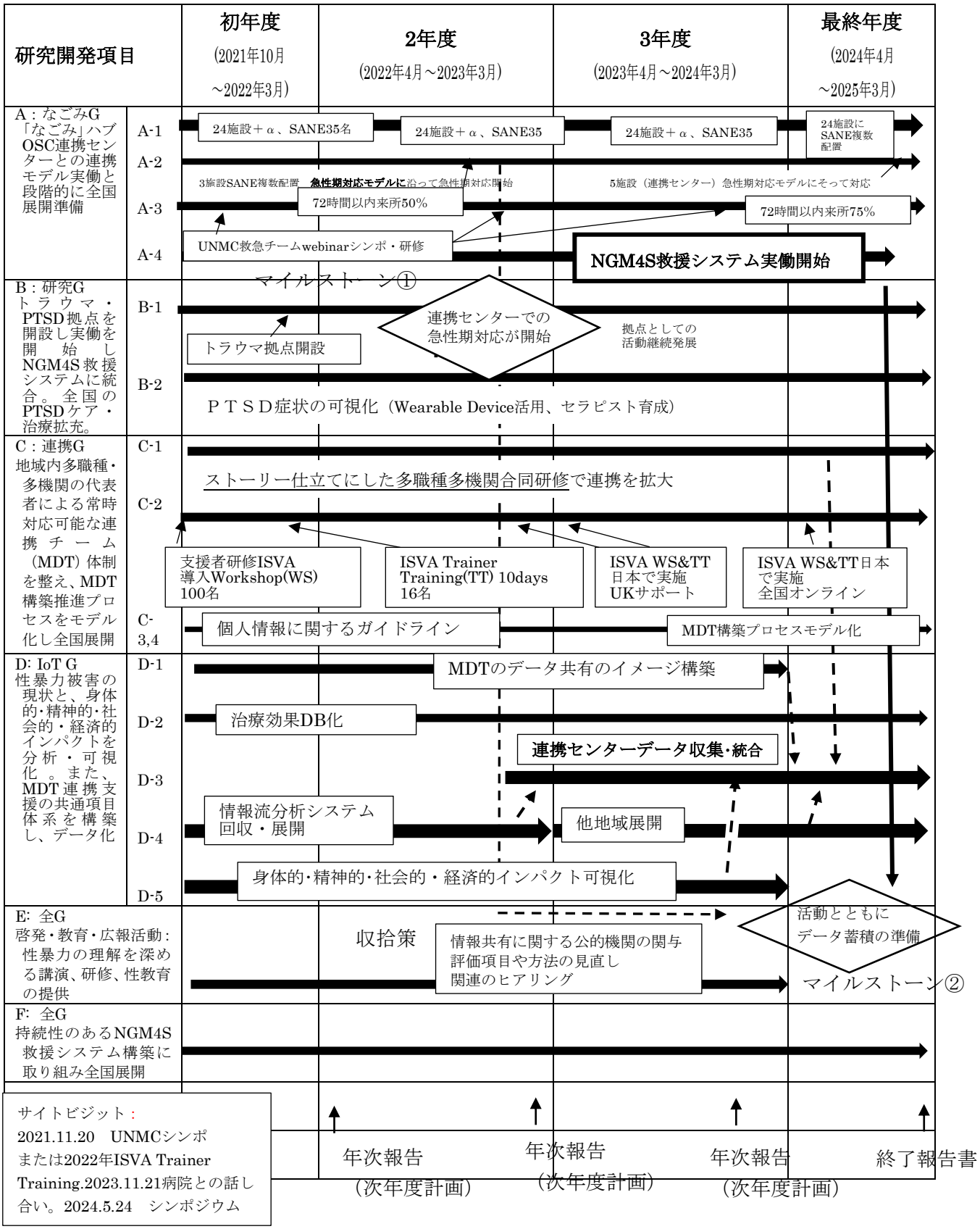
一箇所設置され、研修を受けたスタッフが配置されている。社会には性暴力は犯罪であるという認識が浸透しており、すべての性暴力被害者はためらうことなく助けを求め、二次被害を受けることなく、トラウマ治療を含め包括的な支援を一箇所で受けることができる。性暴力を許さない社会システムにより、将来的には性暴力は撲滅する。

（２）研究開発プロジェクト全体の目標

シナリオ創出フェーズでは、OSC を拠点に、性暴力被害直後から中長期の対応として NGM4S 救援システムを構築した。このシステムを基盤に、愛知県との協働で救命救急センターへの OSC 拡充に向けた事業展開を図り、人材育成と関係機関の連携を促進する体制を構築し、実証試験を行う。関係者の連携体制の足がかりとなる自治体主導の連携協議会を開始し、多機関多職種連携のための適切な情報の流れの明確化と情報共有を進める。これらの事業展開・人材育成・連携構築・情報共有の方法を、他地域での展開を可能にする NGM4S パッケージとして一般化し、全国展開を可能にする。
他地域への展開としては NGM4S パッケージの救援システムを構成する①急性期対応モデル、②多機関・多職種連携チーム（MDT）体制モデル、③PTSD 治療技術、を地域毎にカスタマイズすることで他地域への導入を段階的に進める。情報共有システムとしては、整理された必要な情報の流れを元に簡素な共通コアシステムを構築し、他地域での展開を可能にする NGM4S パッケージとして一般化する。

２－２．実施内容・結果

（１）スケジュール　研究開発期間中（42ヶ月）



（２）各実施内容

今年度の到達点①：なごみをハブとした愛知県内OSC連携センターモデルの初動を、小規模で開始できる。
実施項目①-1：OSC連携センター候補病院に急性期対応ができる体制を整備する。

＊以下については、活動拠点がなごみではなくなったため、予定変更となった。

実施項目①-2：愛知県性暴力・性犯罪被害者支援事業との協働によりOSC連携センターに急性期対応モデルを導入し、なごみとのハブモデル活動を開始する。
実施項目①-3：日本救急医学会、日赤愛知災害管理センターとの協働により、救急や災害の現場にける性暴力被害対応の体制を導入する。

今年度の到達点②：トラウマ・PTSD 拠点を開設し実働を開始する。
実施項目②-1：トラウマ拠点を開設し、連携センターで受け入れた被害者のトラウマ・PTSDの予防・治療・回復への介入および相談窓口とするとともに、治療ケアに従事するスタッフの育成を行う。
実施項目②-2：性暴力被害の影響およびPTSD症状の可視化
今年度の到達点③：被害者を適正な支援・治療につなぐ、地域内多機関・多職種の代表者による常時対応可能な連携チーム（MDT）体制を整える。
実施項目③-1：常時対応可能なMDTを目指し、現場との合意形成のプロセスを具体的にすすめる。
実施項目③-2：UKで開発された支援者研修ISVA(Independent Sexual Violence Adviser)オンライン研修を活用し全国展開の土台を築く。

＊以下については、なごみ・病院・NFHCC・大学間の協定書作成の前に、なごみと本プロジェクトの協力体制についての確認が必要となり、予定変更となった。
実施項目③-3：情報共有においてはガイドラインを作成しチームで共有する

今年度の到達点④：性暴力被害の現状と、身体的･精神的･社会的・経済的インパクトを、中長期的に分析・可視化するためのデータ収集・分析環境の構築、全国レベルでの共通項目体系を構築し、データ化を進める。
実施項目④-1：MDTが迅速なアセスメントと決断により適正に対応するために組織間での性暴力・虐待に関する情報連携に必要な項目を明確にする。
実施項目④-2：トラウマケアおよびPTSD治療効果を集積して可視化・応用する。
実施項目④-3：急性期3か月の対応とPTSD発症について分析
実施項目④-4：性暴力被害の現状および被害が与える身体的・精神的・社会的・経済的インパクトを可視化する。
今年度の到達点⑤：啓発・教育・広報活動：性暴力の理解を深める講演、研修、性教育の提供を行う。
実施項目⑤-1：講演、メディア活用、論文投稿、学会発表、研修、研修教材を作成する。

今年度の到達点⑥：持続性のあるNGM4S救援システム構築への取り組みの全国展開
実施項目⑥-1：CACの設置支援（多機関連携のノウハウ、SANE含めてスタッフの育成など）、プロジェクトメンバーが関わっていることから、全国展開の足がかりとする。

（３）成果

今年度の到達点①：なごみをハブとした愛知県内OSC連携センターモデルの初動を、小規模で開始できる。
実施項目①-1：OSC連携センター候補病院に急性期対応ができる体制を整備する。
成果

１．愛知県性暴力・性犯罪被害者支援事業（2019～2023年度）との協働により第10回目SANE養成研修を令和5年10月～令和6年１月（全８日間、65時間）実施した。54名（県内24連携センター候補病院、小児医療機関１施設、精神科医療機関１施設のうち26病院から19病院31名、外部23名）が受講し修了した。現在までに連携センター候補病院22施設、小児医療機関1施設、精神科医療機関1施設に合計125名の看護師がSANEプログラムを修了し配置されている。
２．OSC ベースラインアセスメントについて、Alison & Cari 氏から届いた日本版の実施について ISVA-Japan で打ち合わせを実施し（令和 5 年 6 月）、各地域で試行を開始した。愛知県については、連携センター4 か所と打ち合わせ中である。
３．米国ネブラスカ大学メディカルセンター（UNMC）救急部門チームが、本プロジェクトとの共同プログラムで令和 5 年 8 月に来日した（予算は米国の助成金）。日本の性暴力被害者支援や子ども虐待の現状と活動についてのドキュメンタリーを作成することを目的に、NFHCC、なごみスタッフ、性虐待分野のスペシャリスト（加茂登志子氏と山田不二子氏）にインタビューを実施した。
４．フォレンジック支援員研修（オンデマンド）が前期（6 月）・後期（11 月）で実施され、約 100 名が参加した。
５．OSC 候補病院として、海南病院（令和 5 年 10 月、ZOOM 会議）、大雄会病院（令和 5 年 11 月）、トヨタ記念病院（令和 5 年 11 月）、公立陶生病院（令和 6 年 2 月）へ訪問し、本プロジェクトへの参加依頼、ベースラインアセスメントについての説明を実施した。大雄会病院を除く 3 病院より参加協力承諾を得て、具体的な打ち合わせを開始した。

今年度の到達点②：トラウマ・PTSD 拠点を開設し実働を開始する
実施項目②-1：トラウマ拠点を開設し、連携センターで受け入れた被害者のトラウマ・PTSDの予防・治療・回復への介入および相談窓口とするとともに、治療ケアに従事するスタッフの育成を行う。
成果

１．トラウマインフォームド・ケアの普及として、大人と子どもの絆を深めるプログラムCAREを日本福祉大学リカレント教育主催のもと実施した。（日本福祉大学名古屋キャンパス2024年1月25日）。
２．武蔵野大学のオンラインPE試行に協力し、2名実施した。

３．コンタクトセンター「くみき」とセラピールーム「たいむ」を令和5年12月に開設した。令和6年5月11日現在、「くみき」対応延件50件（実数16名）、「たいむ」ではカウンセリングおよびセラピーで8名対応し、5名継続中。

４．第2回CFJ司法研修が令和5年9月に行われ参加した。
５．トラウマ拠点での精神科チームを構成したが、解決すべき課題が提起され検討中である。
６． NFHCCにおける心のケアに関する活動資金のためのクラウドファンディングを申請した（令和5年12月）。

実施項目②-2：性暴力被害の影響およびPTSD症状の可視化

成果

１．尺度入力システムを開発し、現在トライアル中である（継続中）。

今年度の到達点③：被害者を適正な支援・治療につなぐ、地域内多機関・多職種の代表者による常時対応可能な連携チーム（MDT）体制を整える。

実施項目③-1：常時対応可能なMDTを目指し、現場との合意形成のプロセスを具体的にすすめる。

成果

１．愛知県性犯罪・性暴力被害者支援機関連絡会議を令和5年9月と11月に開催した。各支援機関の取組について共有した。さらに多機関での情報共有の機会の拡大を愛知県に呼びかけ、今年度は刑法改正をきっかけに警察との情報共有が行うことができた。
２．サポートのフレームワークを積み上げていくために、愛知県内の児相とのミーティングを呼びかけ参加者を広げることを連携推進会議で提案したが、実施には至らなかった。
３．令和5年6月になごみとNFHCCの話し合いをJSTの協力を得て継続した。その結果、弁護士に依頼をし、覚書を交わした。
４．「心理支援のための入力システム」について、kintoneにてフォーム作成のためのデータ項目を整理し、トライアル版を作成した。現在、コンタクトセンター「くみき」にて入力システムトライアル版を試行中である。
５．OSC候補病院として、海南病院（令和5年10月、ZOOM会議）、大雄会病院（令和5年11月）、トヨタ記念病院（令和5年11月）、公立陶生病院（令和6年1月）へ訪問し、共通項目によるデータ入力システムの試行について本プロジェクトへの協力依頼についての説明を実施した。

６．田上プロジェクトとの連携を前提とし、CAC設置にむけて、系統的全身診察及び司法面接導入促進に協力した。スコットランドのエジンバラでのCACの取り組み（バーナフスモデル）を視察研修した（令和6年3月）。

The University of Edinburgh：
バーナフスモデルと
Children 1st に関わるメンバーと
School of Social & Political Science
Prof. J. Devaney
Prof. Mary Michell &
Dr. Louise Hill

Children 1st Office

Children and Young People's Commissioner Scotland

Nick Hobbs氏

Beira’s Place: Rape Crisis Center
女性被害者のみを支援する施設（開設1年）

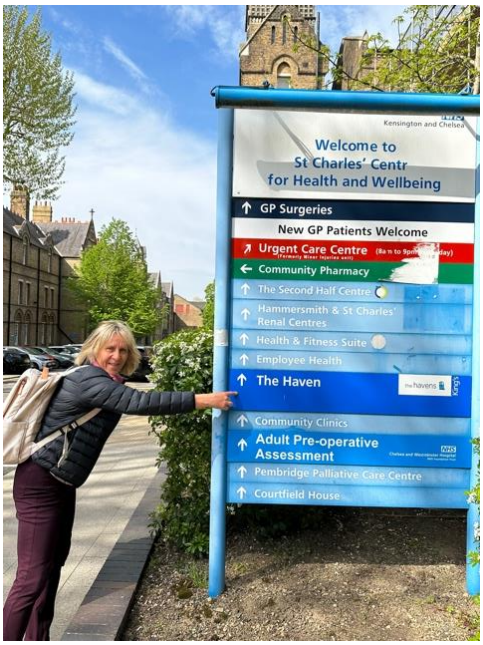
Isabelle Kerrさん、the Manager of Beira’s Place

実施項目③-2：UKで開発された支援者研修ISVA(Independent Sexual Violence Adviser)オンライン研修を活用し全国展開の土台を築く。

成果

１．令和5年5月にUK視察において、MASH（英国MDTの取り組み）を視察して、米国型MDTと合わせて、日本におけるMDTの在り方を検討した。

OSC HEAVEN



今年度の到達点④： 性暴力被害の現状と、身体的･精神的･社会的・経済的インパクトを、中長期的に分析・可視化するためのデータ収集・分析環境を、拠点内に構築する。また、拠点間、多機関・多職種間の連携を支援するための共通項目体系を構築し、データ化を進める。

実施項目④-1：MDTが迅速なアセスメントと決断により適正に対応するために組織間での性暴力・虐待に関する情報連携に必要な項目を明確にする

成果

１．NHKとの大規模アンケートについて、順次分析をすすめている。今後、自由記述データにおけるテキストマイニング分析、男性被害者に関する分析、年齢別に関する分析を実施する（出生時＝男性、性自認＝男性の377件）。

実施項目④-2：トラウマケア及びPTSD治療効果を集積して可視化・応用する。

成果

１．効果測定尺度入力システムの試行を開始した。

２．電話対応（アドボケーターおよびSANE）について開発した来所者満足度調査については、体制の変更に伴って、トラウマ拠点での生活支援を含む心理社会支援システムで、支援の質について問う調査に応用する予定である。

実施項目④-3：急性期3ケ月の対応とPTSD発症について分析大項目①とあわせて）地域OSC連携センターで受け入れた被害者のデータ収集について、「なごみ」のデータ形成に統合し、急性期３ヶ月の対応とPTSD発症について分析可能とする

実施項目④-4：性暴力被害の現状および被害が与える身体的・精神的・社会的・経済的インパクトを可視化する。

成果

１．シナリオフェーズで検討した項目と入力フォームについて、知財としての活用を含めて拠点病院との話し合いと覚書の締結を行った。
２．「性暴力被害者ワンストップ支援センターのための継続的・統合的データ管理システム」として全国展開への活用を目指す。

今年度の到達点⑤：啓発・教育・広報活動：性暴力の理解を深める講演、研修、性教育の提供
実施項目⑤-1：講演、メディア活用、論文投稿、学会発表、研修、研修教材作成（絵本、DVD、オンライン）
成果

1. 一般社団法人看護系学会等社会保険連合へ診療報酬についての要望書を提出した。「SANE-Jによる性暴力被害にあった子どものリプロダクトヘルス指導管理料」については、医療技術評価提案書の一次評価を通過したが、最終的には不採択であった（19項目のうち2項目が採択）。
2. 愛知県内の5か所で養護教員向けに講演を行った。
3. 大学院２か所、大学4か所、専門学校３か所での講義を行った。
4. NHKとの大規模アンケートデータを分析し、メディアの取材、書籍や雑誌への掲載、講演などで発信した。
5. 第107次日本法医学会学術全国集会(令和6年6月)が小田原にて開催され、シンポジウム1「わが国における フォレンジック看護の実践」の演者として参加した。
6. 三重県性犯罪・性暴力被害者支援事業連携機関研修にて講義を行った（令和5年10月）。
7. 第45回山形県母性衛生学会学術集会研修講師して参加した（令和5年11月）。
8. 愛知県主催の性暴力セミナーで講演した（令和5年7月・11月）。
9. 香川県性暴力被害者支援医療者向け研修会にて講義を行った（令和5年12月）。
10. あいち男女共同参画財団セミナーにて「性暴力の実態と支援」の講演（令和6年2月）。
11. 函館ゾンタクラブ(教育委員会などが後援予定）主催の講演会に、「性暴力被害者の急性期対応から治療に繋ぐ心理支援」として講演（令和6年２月）。
12. 日本女性財団が主催するＲ５中部プラットホーム「困窮する女性の背景を知る：女性と子どもの姓を中心に」について事務局及びシンポジストとして協力した（令和6年3月）。
13. The japantimes,　The INDEPENDENT VOICE IN ASIA COMMENTARY “Landmark sexual violence survey reveals shocking data (令和6年4月10日付)

今年度の到達点⑥：持続性のあるNGM4S救援システム構築に取り組みの全国展開
実施項目⑥-1：CACの設置支援（多機関連携のノウハウ、SANE含めてスタッフの育成など）、プロジェクトメンバーが関わっていることから、全国展開の足がかりとする。

成果

１．群馬県、神奈川県、函館などSANEが配置されて動きがあるので、愛知県内と同時並行でOSCの導入と拡充へのアプローチを実施した。
２．愛知県内でCAC立ち上げが進んでいるため、子どもワンストップの側面での展開も視野に入れ、田上プロジェクト、石川プロジェクトと連携した。

（４）当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

〇当該年度の研究開発を総括

A病院拠点型OSC

SANE配置が進み、連携センターの取り組みが積極的になっており、OSCをハブとした「あいちモデル」のイメージが具体的になってきたが、プロジェクトとなごみの関係の変化に伴った修正が必要になったため、全国展開への計画が遅れている。OSC標準化を進める活動は全国展開を推進する動きにつながっているためベースラインアセスメントの活動を活性化させたい。

実施できなかった項目は、以下のように変更し、達成を目指す。
実施項目①-2：なごみとのハブモデル活動は予定変更し、6名以上のSANEを配置した4箇所の連携センターに、急性期対応モデル導入を支援し今後のOSCへの発展を促進する。
実施項目①-3：日本救急医学会との協働を働きかけ、救急や災害の現場にける性暴力被害対応の体制を導入する。

Bトラウマ・PTSD拠点

精神科医グループの構成員の問題があり、予定していたトラウマ拠点設置はできていないが、計画を修正して、トラウマ拠点を目指して「くみき」と「たいむ」で小規模から始めることができた。

C連携（MDT）

MDT構成の働きかけはしてきたが、MDTの活動を展開するまでには至っていない。

全国共有の情報収集項目を具体化したが、まずは愛知県内でその項目データを蓄積していったもらう協力連携センターを増やしていく計画にしている。多機関間の個人情報共有の難しさから、データ蓄積のシステム開発にとりくむところまでは到達できていない。解決方法としては、他県の取り組みと愛知県の取り組みを共有し全国展開への足がかりにしたい。

以下については、協力連携センターとの覚書を交わして取り組む。情報共有については公的機関からの呼びかけを働きかける。
実施項目③-3：情報共有においてはガイドラインを作成しチームで共有する

D インパクトの可視化

NHKとの共同アンケートデータの分析は、予想以上に性暴力被害に関する社会の理解を深めることに役立てることができている。現在男性データ分析中であるが、約1300件のLGBTQデータが最も高いPTSD症状を示しているため今後の課題である。

E. 啓発・教育・広報活動

愛知県の働きかけもあり、愛知県内高校養護教諭対象に５地域ブロックで研修できた。中学校や小学校へとより低年齢へ広げていけると良い。

F.全国展開

OSCベースラインアセスメントを全国レベルで実施したり、福岡、岐阜、愛知のモデルをシンポジウムで共有することで、全国への足がかりとする。

〇当該年度に明らかになった次年度に向けて取り組む課題

- MDTを進めるためには、個人情報の扱いについての課題に取り組む。
- 一般市民が、性暴力被害を「自分事」として認識できるためのアプローチ
- プロジェクト活動継続のための経済的基盤整備の取り組み

２－３．会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
定期月1回	プロジェクト（NGM4S：Nagomi for Survivers）会議	オンライン	プロジェクト活動の報告及び検討
定期月1回	MDTワーキング	オンライン	データ共有のための多職種多機関連携チーム（MDT）の構築と合意形成
定期月1回	SEワーキング	オンライン	性暴力の社会経済的影響について
定期月1回	TVI実践研究会会議	オンライン	支援者育成についての検討
2023.10~2024.1	第9回性暴力被害者支援看護職（SANE）養成プログラム	オンライン	8日間〔64時間〕のプログラムであり、看護師/助産師/保健師の資格保持が受講要件。
2023.6（前期）2023.11（後期）	フォレンジック支援者養成プログラム	オンライン	

2024.1	CARE(大人と子どもの絆を深めるプログラム)	日本福祉大学東海キャンパス	看護実践研究センターのトラウマインフォームドケアとして実施
2023.7	TF-CBT基礎ワークショップ（2日間）アセスメント（UPID）研修（1日）、トラウマインフォームド研修（1日）	日本福祉大学東海キャンパス	

３．研究開発成果の活用・展開に向けた状況

NHKのHP「みんなでプラス“性暴力”を考える」との共同による大規模性暴力ＷＥＢ実態調査アンケートを実施した。現在約38,000件の回答が寄せられ、現在分析中である。

- NFHCCの活動
  - 愛知県との協働
  - トラウマインフォームドケア研修を実施
  - 性教育　絵本の活用
  - 出版：NHKデータを活用し、災害と性暴力（看護協会）、身体的影響（PVT理論）、こどもの科学（親からの被害）など書籍や論文などを執筆中
  - リーフレット修正
  - ホームページの検討
- 全国展開に向けて、
  - SANE研修に全国から継続して参加している病院への働きかけ
  - CACの設置支援（多機関連携のノウハウ、SANE含めてスタッフの育成など）

４．研究開発実施体制

（１）研究グループ

グループリーダー：長江美代子（日本福祉大学、研究フェロー）

役割：NGM4S救援システムの実践評価修正とエビデンス蓄積の準備、システムの拡充と全国展開に向けての計画を練り遂行する。

概要：アンケート調査で募った愛知県内の協力可能な精神科診療施設約32カ所（個人専門家の協力も含む）の協力を得てトラウマ・PTSD拠点を設置し、被害者への科学的根拠に基づいたPTSD治療およびケア提供を確保する。その上で、（一社）日本フォレンジックヒューマンケアセンター（NFHCC）と協働し、虐待専門医師、性暴力被害者支援看護師（SANE）、支援員、PTSD専門家その他、システムにかかわるスタッフ育成のための教育研修を企画実施する。

（２）ＯＳＣグループ

グループリーダー：片岡笑美子（一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター、会長）

役割：性暴力被害者支援の実践、病院拠点型OSCの運営、地域への拡大に取り組む。

概要：地域の連携病院とともに「あいちハブモデル」を構成し、その連携の中心として、IoT/情報連携支援グループにより開発したOSC共通項目入力フォームによる全国データ蓄積の実践を推進し、SANEのスキルアップに取り組み、その実践モデルを示す。連携病院スタッフの研修やワンストップ導入時のコンサルテーションとスーパビジョンはNFHCCが提供する。

（３）IoT/情報連携支援グループ

グループリーダー：榎堀優（名古屋大学・大学院情報学研究科・講師）

役割：なごみを中心に構築された地域内ステークホルダーとのネットワークと協働し、連携の基盤となる情報システムなどを提案する。

概要：データベースの共通化やデータ共有のしくみの構築を検討し、全国展開につなげる。研究グループとともにOSCおよび連携センターの活動データの分析により現状の数値化、各種活動の実施をサポートするシステム（例えばPE実施を補助するウェアラブルデバイスの活用など）を構築する。

（４）連携グループ

グループリーダー：小笠原和美（警察大学校特別捜査幹部研修所長、慶應義塾大学SFC研究所上席所員）

役割：多職種･多機関の代表が定期的に集まることができている状況を土台に、「NGM4S救援システム」の効果を高める常時対応可能MDT構築に関わる。

概要：実践的なMDT体制を構築するために、OSCグループによるベースラインアセスメントと標準化と協働して、犯罪被害者サポートセンター系のOSCと病院拠点型OSC（警察関連と医療関連）、自治体と民間をつなぎ、全国のOSCのレベル向上につなぐプロセスを模索する。また、国内にCACを設置する田上プロジェクトと協働し、子ども被害対応におけるMDTの構築に焦点を当てたモデルを示す。

５．研究開発実施者

研究グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
長江美代子	ナガエ ミヨコ	日本福祉大学	福祉社会開発研究所	研究フェロー
小西聖子	コニシ タカコ	武蔵野大学	人間科学部大学院	教授
Edna Foa	エドナ フォア	University of Pennsylvania	Center for the Treatment and Study of Anxiety	教授

OSCグループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
片岡笑美子	カタオカ エミコ	一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター		会長
山田浩史	ヤマダ ヒロシ	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	第一泌尿器科／なごみ	部長
山室理	ヤマムロ オサム	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	産婦人科	副院長
加藤紀子	カトウ ノリコ	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	産婦人科	部長／センター長
坂本理恵	サカモト リエ	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	医療社会事業部	係長

IoT/情報連携支援グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
榎堀優	エノキボリユウ	名古屋大学	大学院情報学研究科	講師
間瀬健二	マセケンジ	名古屋大学	数理・データ科学教育研究センター	特任教授
林直美	ハヤシナオミ	株式会社マイ．ビジネスサービス		副社長
大沢真知子	オオサワマチコ	日本女子大学	日本女子大学現代女性キャリア研究所	名誉教授 特任研究員

連携グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
小笠原和美	オガサワラカズミ	警察大学校 慶応義塾大学	慶應義塾大学SFC研究所 特別捜査幹部研修所	上席所員 所長
松田　靖	マツダヤスシ	愛知県	防災安全局 県民安全課	課長
原　恵	ハラメグミ	内閣府	男女共同参画局 男女間暴力対策課	係長
加藤秀一	カトウシュウイチ	名古屋市	中央児童相談所	所長

６．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

６－１．シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2023.6.8	第107次日本法医学会学術全国集会	日本法医学会	小田原三の丸ホール	参加者：名	シンポジウム1 「わが国における フォレンジック看護の実践」に参加。 講演内容：「法医学的証拠採取の取り組み」
2023.11.18	第45回山形県母性衛生学会学術集会	山形県母性衛生学会	山形県立保健医療大学	参加者：	講演内容：「女性に対する暴力予防の支援―性暴力被害者支援の視点から」
2024.3.7	日本女性財団R５中部プラットホーム	日本女性財団	イオンコンパス	参加者：90名	講演内容：困窮する女性の背景を知る：女性と子どもの姓を中心に」

日本女性財団R５中部プラットホーム

６－２．社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

（１）書籍、フリーペーパー、DVD

・切り離せないDV・虐待・性暴力の支援をつなぎ次世代を守る、長江美代子(pp.90-111). 子ども学 第11号、2023.
・「助けて」と言える社会へ 性暴力と男女不平等社会、大沢真知子、日本出版社、2023.
・『わが国におけるポリヴェーガル理論の臨床応用』第６章性犯罪及び性被害者支援:フォレンジック看護におけるポリヴェーガル理論 の臨床応用、長江美代子、岩崎学術出版社、2023.
・「特集　性加害ニュースどう伝える！？」NHKジャーナル、2023.11.9.
・「性加害」ニュースが“しんどい”あなたへ一性暴力を考えるー、NHKみんなでプラス、2023.
・ネブラスカドキュメント撮影、ネブラスカ大学救急医療チーム、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院8名、長江、片岡インタビュー、2023.8.10.

（２）ウェブメディアの開設・運営、
なし

（３）学会（6-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

・（シンポジウム等の名称、演題、年月日、場所を記載）

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2023.6.15	医療法人社団互啓会ぴあクリニック令和5年度職員研修	医療法人社団互啓会ぴあクリニック	医療法人社団互啓会ぴあクリニック	参加者：ぴあクリニック職員10名	講演内容：「主に訪問場面において知っておきたいトラウマの理解とケア」

2023.6.27	令和5年度第1回愛知県学校保健会県立学校部知多支部養護教諭研究会講演	愛知県学校保健会	アイプラザ半田	参加者：県立高校所属養護教諭30名	講演内容：「子どもの性暴力被害の現状と支援―学校ができることー」「性暴力被害の現状と被害者のトラウマ・PTSD」
2023.7.6	日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科特別講義	日本赤十字秋田看護大学大学院	日本赤十字秋田看護大学講義室	参加者：大学院看護学研究科看護学専攻修士課程学生9名	講演内容：「リプロダクティブヘルス／ライツを守る性暴力被害者への急性期対応の重要性と性暴力対応看護師（SANE）の役割」
2023.7.12	愛知県立大学母性看護方法論講義	愛知県立大学母性看護学	愛知県立大学守山キャンパス	参加者：100名	講演内容：
2023.7.19	愛知県性暴力被害防止セミナー講演	県民安全課安全なまちづくりグループ	愛知県立大学長久手キャンパス	参加者：	講演内容：
2023.7.24	長野県看護大学フォレンジック看護学講義	長野県看護大学	長野県看護大学	参加者：100名	講演内容：「フォレンジック看護学とは」
2023.9.6	学校法人日本教育財団名古屋医専	名古屋医専看護学科	名古屋医専看護学科	参加者：38名	講演内容：「性暴力被害者への急性期対応の重要性―リプロダクティブヘルス／ライツの実践―」
2023.9.12	学校法人日本教育財団名古屋医専	名古屋医専看護学科	名古屋医専看護学科	参加者：44名	講演内容：「性暴力被害者への急性期対応の重要性―リプロダクティブヘルス／ライツの実践―」

2023.10.7	2023年度「ふくし学習会オンラインセミナー」	日本福祉大学地域ブロックセンター	Zoom ライブ配信	参加者：全国の日本福祉大学同窓生	講演内容：「性暴力被害対応におけるフォレンジック看護の役割：周トラウマ期反応とポリヴェーガル理論の臨床応用」
2023.10.19	三重県性犯罪・性暴力被害者支援事業連携機関研修	三重県くらし交通安全課	三重県合同ビル	参加者：SANE、警察他15名	講演内容：「多機関多職種連携による性暴力被害者支援体制の構築」
2023.11.14	令和5年度愛知県学校保健会県立学校部保健主事研究会	愛知県学校保健会	愛知県教育会館	参加者：県立学校等保健主事220名	講演内容：「性暴力被害の実態と支援活動」 「性暴力被害の現状と被害者のトラウマ・PTSD」
2023.11.22	学校法人セムイ学園東海医療科学専門学校非常勤講師	学校法人セムイ学園東海医療科学専門学校	学校法人セムイ学園東海医療科学専門学校	参加者：約30名	講演内容：「女性と家族を支える　性暴力被害者への急性期対応の重要性―リプロダクトティブヘルス／ライツの実践―」
2023.11.22	愛知県性暴力被害防止セミナー講演	県民安全課安全なまちづくりグループ	名城大学ナゴヤドーム前キャンパス	参加者：165名	
2023.11.24	令和5年度愛知県学校保健会県立学校部尾張支部養護教諭部会講演	愛知県学校保健会	名古屋文理大学フォーラム小ホール	参加者：愛知県立学校尾張支部の養護教諭５０名	講演内容：「性暴力被害の実態と支援活動」 「性暴力被害の現状と被害者のトラウマ・PTSD」
2023.12.1	令和5年度愛知県学校保健会県立学校部名瀬支部講演	愛知県学校保健会	ウィルあいち	参加者：県立学校等保健主事	講演内容：「子どもの性暴力被害の現状と支援―学校でできることー」 「性暴力被害の現状と被害

					者のトラウマ・PTSD」
2023.12.3	令和5年度香川県性暴力被害者支援医療者向け研修会	香川県政策部男女参画県民活動課	高松商工会議所	参加者：50名	講演内容：「性暴力被害者への急性期対応の重要性―病院拠点型ワンストップ支援センターの活動を通して」
2023.12.8	公立陶生病院虐待予防研修会	公立陶生病院人権擁護委員会	公立陶生病院	参加者：医師、看護師等の院内・院外の医療従事者	講演内容：「性暴力被害の現状と多機関多職種連携による支援体制をめざして―早期介入でからだとこころを守ろう―」
2023.12.15	学校法人日本教育財団名古屋医専	名古屋医専看護学科	名古屋医専看護学科	参加者：38名	講演内容：「性暴力被害者への急性期対応の重要性―リプロダクティブヘルス／ライツの実践―」
2023.12.20	人間環境大学大学院看護学研究科	人間環境大学助産学領域	人間環境大学	参加者：7名	講演内容：「性暴力被害者への急性期対応」について
2024.1.12	日本赤十字社豊田看護大学母性看護学概論講義	日本赤十字社豊田看護大学	日本赤十字社豊田看護大学	参加者：120名	講演内容：「リプロダクティブヘルス／ライツを守る性暴力被害者への急性期対応の重要性と性暴力対応看護師（SANE）の役割」
2024.1.16	愛知県東三河高等学校生徒指導研究会講演	東三河高等学校生徒指導研究会	ライフポートとよはし教育会館	参加者：約50名	講演内容：講演内容：「子どもの性暴力被害の現状と支援―学校でできること―」
2024.1.18	上智大学 講演	Sophia University Institute of Comparative Culture	上智大学	学生・研究者・ジャーナリスト	Sexual Violence and Gender Inequality in Japan

2024.2.5	令和5年度愛知県立大学母性看護学方法論講義	愛知県立大学	愛知県立大学守山キャンパス	参加者：約100名	講演内容：「リプロダクティブヘルス／ライツを守る性暴力被害者への急性期対応の重要性と性暴力対応看護師（SANE）の役割―」
2024.2.8	愛知県総合看護専門学校令和5年度愛知県専任教員養成講習会	愛知県総合看護専門学校	愛知県総合看護専門学校	参加者：45名	講演内容：「性暴力被害者支援について」
2024.2.15	テンプル大学日本校講演	テンプル大学日本校	テンプル大学日本校	学生・研究者・ジャーナリストなど	Sexual Violence and Gender Inequality
2024.2.17	公益財団法人あいち男女共同参画財団2023年度男女共同参画セミナー	公益財団法人あいち男女共同参画財団	愛知県女性総合センター		講演内容：「性暴力の影に隠された声～調査結果から見えたこと」
2024.2.18	米子市男女共同参画課　講演	米子市男女共同参画課	米子市ふれあいの里４階中会議室	米子市市民	生きづらさの根底にあるもの～助けてと言える社会をめざして
2024.2.22	日本女子大学現代女性キャリア研究所講演	日本女子大学現代女性キャリア研究所	日本女子大学現代女性キャリア研究所	学生・大学院生・教員・研究者	性暴力と男女不平等社会
2024.2.24	函館ゾンタクラブゾンタローズデー講演会	函館ゾンタクラブ	ホテル函館ロイヤル・シーサイド	参加者：80名	講演内容「性暴力被害によるトラウマ・PTSDの理解」
2024.2.25	日本ペンクラブ女性作家委員会 日本のハラスメントを考える講座の第５回	日本ペンクラブ女性作家委員会	専修大学神田キャンパス７号間７	一般市民	男らしさの彼岸ー男らしさを問い直す

	鼎談		３１教室		
2024.2.27	豊橋市民病院講演	豊橋市民病院患者総合支援センター	豊橋市民病院	参加者：約50名	講演内容：「多機関多職種連携による性暴力被害者体制―性暴力被害者への急性期対応の重要性―」
2024.3.5	令和5年度愛知県学校保健会県立学校部東三河支部養護教諭部会第2回研究会講演	愛知県学校保健会	豊橋教育会館	参加者：養護教諭45名	講演内容：「子どもの性暴力被害の現状と支援―学校でできることー」「性暴力被害の現状と被害者のトラウマ・PTSD」
2024.3.8	連合大阪学習会	連合大阪	エル・大阪南館７階	連合大阪女性委員会委員	なぜ女性は活躍できないのか
2024.3.9	国際女性年大阪連絡会５０年記念集会	国際女性年大阪連絡会	ドーンセンター（大阪）	国際女性年大阪連絡会加盟１５団体のメンバー	「助けて」と言える社会へ一性暴力と男女不平等社会

６－３．論文発表

（１）査読付き（　0　件）

●国内誌（　0　件）

●国際誌（　0　件）

（２）査読なし（　3　件）

・長江美代子、切り離せないDV・虐待・性暴力の支援をつなぎ次世代を守る、子ども学、11、90-111、2023.

・長江美代子、フォレンジック看護におけるポリヴェーガル理論の臨床応用. In 花丘ちぐさ（Ed.）、わが国におけるポリヴェーガル理論の臨床応用:トラウマ臨床をはじめとした実践報告集(pp. 190-208）、岩崎学術出版、2023.

・大沢真知子、「助けて」と言える社会へ 性暴力と男女不平等社会、日本出版社、2023.

６－４．口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）。

（１）招待講演（国内会議　0　件、国際会議　0　件）

（２）口頭発表（国内会議　0　件、国際会議　0　件）

（３）ポスター発表（国内会議　0　件、国際会議　0　件）

６－５．新聞報道・投稿、受賞等。

（１）新聞報道・投稿（4件）

・中日新聞2023年3月10日付記事取材

・北海道新聞2024年2月25日付記事取材

・産経新聞2024年3月5日付記事　取材、

*The japantimes 2024.4.10 The INDEPENDENT VOICE IN ASIA COMMENTARY

（２）受賞（ 0 件）

（３）その他（ 1 件）

・AERA2023 年 10 月 30 日 No.5 p.15 付記事　取材

６－６．知財出願

（１）国内出願（ 0 件）